

第24回全国交流集会交流全体集約

県協連事務局長 高原敏朗

インタビュー、初めての試みの成功

今日の閉会集会は、ブロック代表の合間に参加者のインタビューを入れました。初めての試みでした。2日目は活動報告を聞いているだけでマンネリ化していないかと昨年のアンケートにありました。ですから参加者からのインタビューを取り入れたらどうかということで取り入れました。これが成功しましたね。誰も寝ているひとがおりません。いつもだと全体集約に入る頃になると疲れている方が多いのですが、今回は、インタビューを入れたことで、3人の仲間の感想が話され、非常に和やかな雰囲気会場全体を包んでこの試みが成功しました。

3人の最初は、2回目の参加という埼玉のKさん。『中南米マガジン』の編集長です。「私はなぜ、この全国交流集会にきたのか。それは徳島の三好市職労友の会は、友の会運動の聖地だ。交流して元気を頂いた」と言ってくれました。

2番目の東京のYさんは、「友の会運動を通して、労働者階級が社会の主人公だと分かった。これからも仲間づくりを続けていきたい」と明確に語ってくれました。

3人目のMさんは、昨日の文化交流で大きなカブをひっこ抜く演技を演じてくれましたが、「来年も頑張って参加したい」と元気に語ってくれました。来年にも生かしていただきたいと思います。

老若男女 224名が参加

昨日、今日と2日間の短い交流集会でしたが、皆さん、いかがだったでしょうか。有意義な交流ができましたでしょうか。

来賓の皆様の手厚いご指導のもと、友の会運動も年々発展してまいりました。心か

ら御礼申し上げます。さてこの第24回全国交流集会の大成功は、池内康宏現地実行委員長を始めとするすべての四国ブロックの仲間の皆さんの一致団結した力による賜物です。本当にありがとうございました。

それでは2日間を通しての全体集約を行います。皆さんから寄せられた友の会活動報告書、座長さんの報告書、そして昨日の見事な文化交流会、今日のブロック代表、女性代表、その合間の参加者からの感想などをすべて読んだ内容から集約してみたいと思います。

まず、第一に参加者の年齢構成と男女比です。いつものことですが、四国で開催すると参加者が必ず増えます。一昨年は、205名、昨年は203名でしたが、今年は19県協、224名の結集でした。26歳の若者から86歳までの老若男女が文字通り参加いただきました。6ブロックの時は、500名近い仲間が参加してきましたので、何としても6ブロックの統一を果たして階級戦に勝ちぬく力を回復していかなければなりません。

さて年齢構成です。20歳代の若者が4名、30歳代が13名、40歳代12名で、併せて29名でした。昨年は25名でしたから4名増えましたが四国開催にしては余り伸びませんでした。全体の比率では13%です。

これに比して50歳代は42名で19%、現役労働者は併せて25名+42名=67名ですから増えています。しかし、60歳代が97名と一番多く43%です。70歳代も52名で23%、80歳代は3名を加えると152名となり全体の68%、約7割を占め確実に高齢化が進んでいることは否めません。

しかし、これは「闘い一生、学習一生」の構えをもって60歳定年後も再雇用で働き続け、仲間を作り続けている友の会員、更には、65歳を過ぎて年金生活に入っても

頑張ってきた証しでもありお互い健闘を讃え合いたいと思います。本当に頭が下がります。これからも厳しい中ですが、もうひと踏ん張りしていただかねばなりません。

これから言えることは、この世代の方々に友の会運動、労働組合運動、社会主義運動を担う次世代の若者を作り上げ、組織の若返りを図っていくことが求められているということです。

女性の頑張りが組織強化に

次に言えることは、男女比ですが、一昨年から3年続けて60名に迫る女性の参加者が定着してきており、この女性たちが女性の担い手を誕生させ、組織強化に新たな息吹きを吹き込んでいただいているということが分かりました。全体集会での香川県協の柚友の会を結成したIさん、彼女の誌の朗読には非常に感銘しました。さらには久しぶりの参加ですと徳島県協のYさん、山梨県協のリニア新幹線ストップ！を闘うSさん、そしてアスベスト被害の責任追及を闘い続ける埼玉県協のMさん、この女性たちの頑張る力はどこから来るのか、これからも学び続けていかねばなりません。

第一学習会の強化・拡大

大きな2番目の課題は、第一学習会の強化・拡大で、「四つの課題を三つにまなぶ」中で、どう実践に一步、半歩まえに踏み込んだのか、その成果と課題とはなんだったのかということです。

参加友の会は、85友の会ですが、第一学習会が確立している友の会は62友の会で74%。合同第一学習会が13友の会で16%、併せると90%の友の会で組織的学習が保障されています。毎年この比率が維持されてきました。休止中、まだ開催がおぼつかないお休み中の友の会は、9友の会でしたが、ブロックの団結、県協内の班活動、内外の五人組運動の中で、再開をめざしておりますので、今後の集団指導体制の確立の

中でもうひとりの担い手を探し出していくほかありません。まったくいないのでしょうか。そうは思えません。四国ブロックは、愛媛の井関農機の仲間への働きかけ、今回参加いただいたように、要はこちらの指導部の働きかけの問題です。自分が変わらなければ、仲間是不会変わらないのです。

それには、仲間から学ばねばなりません。闘う仲間の頑張り、闘えない仲間からも「なぜか、どうしてか」から「それでいいのか」と、その原因をつかむことが肝心なのです。そのためにも『月刊まなぶ』をはじめとした古典学習が欠かせません。テキストの活用状況は時間の関係で割愛させていただきます。

分散会からまなぶ

国労でたたかってきた怒りを忘れず

次に分散会の座長さんの報告は、どこでも、参加者が高齢化して年金生活で苦闘している実態が克明に書かれていました。しかし、年齢を**かさねて**も新たな友の会を結成した、新たな若い仲間を迎え入れてきたという嬉しい報告もありました。

私の分散会の5人の仲間の報告に学びたいと思います。さきほど報告した香川の柚友の会の新たな結成、女性学習会からの発展とIさんから報告いただきました。

国労に在籍していた頃の怒りを忘れず頑張ってきたから今日の自分もあり、「闘い一生、学習一生」のまさに実践でした。

これは高郵友の会のK姉妹の学習会への参加で、相乗効果が生まれて、パワハラで悩む**姉さん**に寄り添うことができたという内容でした。

組合役員選挙をたたかう

3人目は、東京東部協の京成駅友の会のMさん、来年の役員選挙闘争に向けて、『月刊道しるべ』を120部から200部に拡大し、3役の一角を崩すという報告でした。

今の京成電鉄では非正規労働者が増え、低賃金で喘ぐ労働者が多いが、労働組合が本来の闘う労働組合の意義を失っている。

職場には不平・不満が渦巻いており、そ

の小さな声をくみ上げ、労働組合を変えていかねばならない。それには、組合役員選挙を闘う若手を育てていかねばならない。私は、もう年金生活に入って現場には、いないが、現場の28歳の若手と毎月『月刊道しるべ』を持って飲み会をやって広げている。もっとリストアップして、200部まで広げていきたいと語ってくれました。

このふたつの友の会に共通していたのは、年金生活だが、介護保険料が高くなり、目減りする年金だが、友の会運動に身を挺して頑張っている姿でした。それは、仲間の声に耳を傾けるからできるのです。そして、それは怒りが根本にあるからつかめる、頑張れるという報告でした。

愛媛の井関農機の仲間の闘いの報告からも、最高裁まで闘うぞ！という力の源泉は、この怒り、そして、それが要求へと転化しているからです。

しかし、多くの座長さんから、今の現場で働く仲間からは、「資本、当局はもとより、敵を一緒になって労働組合が、攻撃をしかけてくる、もうやってられない。とあきらめが蔓延している」といいます。

しかし、こうも言っています。「なぜか。どうしてか」から「それでいいのか」という相互討論の場が、存在すれば、職場の仲間と話しかけ、どう思っているのか、じっくり話を聞いていく。そうするとやっぱり「おかしいよね！」と返ってくる。ここがつかめればしめたものです。

おかしいことはおかしいと言い続ける

4人目の東京南部協、国労のAさん、JRで60歳定年再雇用の方は、自らの勤務表を分散会に持参して、こういいました。

私の勤務は泊明けの交番勤務です。「いままで、午前2時40分から仮眠に入る交番でした。もう2時を過ぎると、目がさえて眠ろうと思っても眠りにつけない。そこで、5年がかりで、職場の仲間、東労組(第2組合)の仲間にも声をかけて、そうだよ！という納得を確認して、助役に粘り強く要求してきた。そしたら理由は言わずに、助役が3月のダイヤ改正に、2時から仮眠していいとなった。40分も早く仮眠できる

ようになった。しかし、引き継ぎは1時半に終わるので、1時半から仮眠に入れる。2時40分から、1時半の70分も早く仮眠に入れるようになった。小さな成果だが、人間らしく眠れる条件の要求を掲げて闘ってきて勝ち取った大きな成果と言える！。これからも人間らしく働き続け、生き続ける要求をもって頑張っていきたい」と意気込みを語ってくれました。あきらめず、5年がかりで職場で共通要求にすれば、勝ち取れるという話でした。非常に勇気づけられた報告でした。これは同じ仕事なのに、賃金は6割に減らされ、不当な仕打ちに怒りをもち許せないという怒りがあることも分かりました。やはり、「おかしいことはおかしい」と言う以外に勝ち取れないと熱く教訓を語ってくれました。

評価制度の最低評価を許さず

分散会参加者の5人目の高知県協のTさん。この方も、最低評価を受け、「なぜだ。俺がI評価なんだ。何が基準で、そうなるのか示せ。」と「おかしいことはおかしい」と評価制度の矛盾を問う裁判闘争を闘い、職場の仲間、全国のまなぶの仲間からの支援を受け、最終的には、裁判官から和解の提示があり、Tさんの要求がほぼ通ったという報告です。もう、今、どの職場でも、成果主義賃金体系で苦しめられている実態があるなか、この闘いに続く闘いが皆無という実態がありますが、再度、自分の働き方の見直しの24時間のメモ化を出し合い、怒り、要求の根拠をつかみだしていく以外にありません。

このように「四つの課題を三つにまなぶ」第一学習会の深まりから、一歩踏み出し、大衆学習運動、労働組合運動の強化の寄与していることが分かりました。

次は県協連の目指す大きな柱である『月刊まなぶ』3000部到達運動ですが、減部傾向に歯止めがかかっていませんが、上記の仲間づくりで確実に仲間への働きかけでリストアップの強化から個人方針を確立し、組織的運動で拡大している仲間もいることも確かです。そして、運動に不動の確信を持つために古典に学ぶ総学習運動を

強化せねばなりません。

文化交流会の充実と成功

昨日の文化交流会は、いつもは3ブロックの文化・演劇発表がありますが、ホテルの都合で21時には会場を明け渡し終わらせねばならず、2ブロックの演目発表、まなぶ合唱団の課題曲発表になりました。

年々、文化発表は充実した内容となってきています。

まず、四国ブロックの『大きなかぶ』は、農民が地主から、働いても働いても**合理化**によって搾取され続けるなか、最後に大きなカブを作った段階で、お互いの競争で生きぬくのではなく、団結して闘う以外にないという怒りに目覚め搾取強化を粉碎するというストーリーでした。ナレーターの語りとマッチしたすばらしい表現に参加者からおおきな拍手が沸き起こりました。

もうひとつは、関東・東京合作の『三池の主婦会誕生の歴史』です。初代主婦会会長の五島頼子さんの満州から引き揚げてからの三池炭鉱での炭鉱**労働者**の夫たちを支える主婦から、63ストをたたかい、英雄なき113日の首切り撤回で大きくはばたき、313日の安保＝三池の大闘争の原動力となっていった回想録をみごとに表現してくれていました。

まなぶ合唱団の課題曲の発表は①『死ぬか生きるかだ』は、最後の「ひとりではたかえぬ」というまさにそのとおりだ、とソロで歌っていたのは誰かな？と思いましたが、Aさんでした。Aさんは、演劇でもナレーターで出演し、文化交流会は、Aさんの独断場、すばらしかったです。ありがとうございました。ふたつめの課題曲②『信頼』は、友の会運動も仲間、家族の信頼づくりにつながる曲だなと思いました。そして、最後は『地底の歌』です。第4楽章は、全員起立して歌いましたが、いつも胸を打たれる日本の階級闘争の原点の組曲だなどと改めて思い直しました。

展示＝ベビーパール『月刊まなぶ』原版 機関紙、県協スナップ写真

『きてみいや』第6号当日発刊

次は、展示です。毎年行ってきましたが、『月刊まなぶ』表紙を飾るベビーパール of 原版的展示、機関紙8県協、5友の会のニュース。そして17県協のスナップ写真に昨年から一年間、頑張っている姿が写し出されていきました。そして現地実行委員会ニュースの『きてみいや』第6号は、初めての取り組みでした。昨日の情景をニュースで残すことができた快挙です。来年にも引き続きさせていただきたいと思いました。

今年、後半の課題とは

最後は、今年後半の課題とは何かです。まず、第1は、19春闘を総括し、7月参議院選挙闘争に全力を傾け闘うことです。私たちが、人間らしく働き続け、生き続けるには、平和と民主主義の保障がなくてはなりません。辺野古新基地反対、普天間基地即時返還、米軍は日本から出ていけ！と大きな声を挙げていかねばなりません。

「オール沖縄」は、三度、辺野古新基地反対の民意を現し、勝ち抜いてきました。この闘いに学ばねばなりません。

この平和と民主主義を根底から破壊しようとする安倍政権を追い落とさねばなりません。参議院選挙には、全野党共闘で全ての1人区で勝利を勝ち取りましょう。

この闘いに寄与していきましょう。

第2は、21世紀の社会主義の挑戦を闘うベネズエラ・ボリバル共和国、マドゥロ政権への連帯です。アメリカ帝国主義の軍事介入・転覆工作に抗して闘い抜いているベネズエラ社会主義をめざす政権に連帯していくことです。それには、社会主義への不動の確信を持つために科学的社会主義を学び続けようということです。

第3は、6ブロックの統一です。粘り強く働きかけていきたいと思えます。

最後はお願いです。第25回全国交流集会は、東京ブロックです。来年5月16日～17日、湯河原で開催します。元気にお会いしましょう。